

科目名 (英)	スポーツ鍼灸実技 Sports-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	前田 見太郎
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分 曜日・時限	後期
【授業の学習内容】							
<p>・スポーツ鍼灸実技では多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(スポーツ分野)を身につける。</p> <p>・はり師きゅう師に必要なスポーツ医学を基本とした傷害の予防、治療法やコンディショニングを身につける。</p> <p>本授業ではスポーツ支援のために必要な①解剖学運動学の統合的知識、技術、②怪我、病気、③応急処置から救急処置、④リコンディショニングについて行う。</p> <p>授業後半では実際の現場を想定したシミュレーションを行い、知識と技術の統合を行う。</p> <p>実務実績 前田 高等学校ゴルフ部、社会人アメリカンフットボール、女子ラグビーなどでのトレーナー活動及び国民体育大会帯同 資 格 はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント</p>							
【到達目標】							
<p>①競技者との良好な関係を構築するために必要なコーチングの目的を説明できる。②競技者の身体状況の把握(メディカルチェック)を行うことができる。</p> <p>③一次救命の流れを説明できる。④ファーストエイド(応急処置)を行うことができる。⑤熱中症の予防対策を説明できる。⑥スポーツ外傷で遭遇することの多い外傷に対しての診察、治療プラン作成、治療を行うことができる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	スポーツの心理 スポーツにおける動機づけが説明できる
2回目	コーチングの心理 コーチング行動について説明できる
3回目	スポーツ傷害にかかわる医科学スタッフの役割 整形外科的メディカルチェック1 アライメント観察を行う
4回目	発育期に多いスポーツ外傷 整形外科的メディカルチェック2 筋タイトネスの測定を行う
5回目	整形外科的メディカルチェック3 ROMを行う
6回目	トレーニング理論 行動体力の分類、トレーニングの原理・原則、ウォーミングアップとクーリングダウン、トレーニング処方について説明できる
7回目	スポーツ活動中に多い怪我、病気1 急性障害、慢性障害について説明できる
8回目	スポーツ活動中に多い怪我、病気2 一次救命処置、ファーストエイド、外科的応急処置について行う
9回目	スポーツ活動中に多い怪我、病気2 ファーストエイド、外科的応急処置について説明できる
10回目	スポーツ活動中に多い怪我、病気3 《上肢の外傷・障害1》 肩関節の外傷・障害について説明できる
11回目	スポーツ活動中に多い怪我、病気3 《上肢の外傷・障害2》 肘関節、手関節の外傷・障害について説明できる
12回目	スポーツ活動中に多い怪我、病気4 《下肢の外傷・障害》 下腿、足関節の外傷・障害について説明できる
13回目	スポーツ活動中に多い怪我、病気5 《頭頸部の外傷・障害》 頸椎捻挫、頸椎神経根障害の外傷・障害について説明できる
14回目	女性とスポーツ 《身体的・心理的特徴》、スポーツの心理 《メンタルマネジメント、イメージトレーニング》
15回目	特殊環境下での対応 暑熱対策について説明できる
準備学習 時間外学 習	準備学習 解剖学、運動学で学習した内容を復習しておくこと 時間外学習 障害の発生メカニズムについて復習しておくこと
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセ ージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
<p>医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能、 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK</p>	

科目名 (英)	スポーツ鍼灸実技 Sports-related Acupuncture and Moxibustion Practical Skills	必修 選択	必修	年次	3年次	担当教員	前田 見太郎
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	実技	総時間 (単位)	45 1	開講区分 曜日・時限	後期
【授業の学習内容】							
<p>・スポーツ鍼灸実技では多様化する鍼灸の社会的ニーズに対応できる能力(スポーツ分野)を身につける。 ・はり師きゅう師に必要なスポーツ医学を基本とした傷害の予防、治療法やコンディショニングを身につける。 本授業ではスポーツ支援のために必要な①解剖学運動学の統合的知識、技術、②怪我、病気、③応急処置から救急処置、④リコンディショニングについて行う。 授業後半では実際の現場を想定したシミュレーションを行い、知識と技術の統合を行う。 実務実績 前田 高等学校ゴルフ部、社会人アメリカンフットボール、女子ラグビーなどでのトレーナー活動及び国民体育大会帯同 資 格 はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント</p>							
【到達目標】							
<p>①競技者との良好な関係を構築するために必要なコーチングの目的を説明できる。②競技者の身体状況の把握(メディカルチェック)を行うことができる。 ③一次救命の流れを説明できる。④ファーストエイド(応急処置)を行うことができる。⑤熱中症の予防対策を説明できる。⑥スポーツ外傷で遭遇することの多い外傷に対しての診察、治療プラン作成、治療を行うことができる。</p>							
授業計画・内容							
16回目	コンディショニング1 上肢のストレッチを行う						
17回目	コンディショニング2 体幹のストレッチを行う						
18回目	コンディショニング3 下肢のストレッチを行う						
19回目	コンディショニング4 スポーツマッサージを行う						
20回目	傷害に対する物理療法について説明できる						
21回目	スポーツ傷害シミュレーション1 診察から病態把握、治療方針、トレーニング処方を行う						
22回目	スポーツ傷害シミュレーション2 診察から病態把握、治療方針、トレーニング処方を行う						
23回目	スポーツ傷害シミュレーション3 診察から病態把握、治療方針、トレーニング処方を行う						
準備学習 時間外学習	<p>準備学習 解剖学、運動学で学習した内容を復習しておくこと 時間外学習 障害の発生メカニズムについて復習しておくこと 筋の起始停止、作用、関節構造について復習しておくこと</p>						
評価方法	<p>成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。</p>						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
<p>医歯薬出版社 東洋療法学校協会編 解剖学 日本医事新報社 人体の正常構造と機能、 滋慶出版 ずっと使える 鍼灸臨床BOOK</p>							

